

花鳥風月・俳句

コロナ禍の対話なき春寂しうす

春耕の跡より鳥の群れてくる

三浦 シズ子

空白のままの一日やフリージア

十八歳大人となりて風光る

徳永 誠一

さようなら桜も落葉忠魂碑

彼岸花散れば老婦と良い散歩

氏神の枯木の掃除老人会

秋蝶の冬田打たれて悲しそう

夏の雲冬田は無田淋しそう

藤田盛男

道迷いいでたる古道桜満つ

春光や神の庭にも霞草

塗堀良子

おにぎりや春らんまんのゴザ敷きて

春光や真紅の桃花一面に

ひんやりと新芽の香り吸込みて

石井トシ子

朝桜ランドセルはねる一年生

元気よくタケノコ伸びる竹の秋

落合敦

老の足おのづと重し春彼岸

花散るや日々の一句は辞世とも

鈴木 伊都美

父と土耕し稲田なつかしく

梅雨空に輝き青きメダカたち

シトシトと梅雨の足音届け物

小野 弘幸

何もかもごったに入れし入学す

寝たきりの妻よ死ぬなよ桜咲き

春雪や小さき足跡とけており

えさ台に来る野鳥と春を待つ

曾我部 福石

山笑う遠くからみる山桜

ぱくぱくと大きな口で鯉泳ぐ

篠原 高代

金柑に小鳥集まり宴かな

親しむる村の社に初詣

明星 勲

花曇りコロナで会えぬ孫の顔

高橋 学

白菜のしばられており花咲かす

新入生自転車ピカリ足かるく

加藤 イサ子

紅葉のもみじを写す黒瀬ダム

コスモスが激しく揺れる線路わき

石風呂の跡が残りし海のそば

西川 美枝

ベランダに洗濯物と鯉のぼり

好物の筍土佐煮夫に出し

小林 泰子